

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21520207

研究課題名（和文） 文学テキスト活用による中世・近世の大衆的図像の解読研究

研究課題名（英文） The Analysis on popular pictures from the Middle Age to the modern era based on the text of literature in the same age

研究代表者

林 雅彦 (HAYASHI MASAHIKO)

明治大学・法学部・教授

研究者番号：30139448

研究成果の概要（和文）：

三年間の研究活動を通して、中世・近世期を中心に、日本から東アジア・ヨーロッパまでを広く視野に入れながら、名も無き大衆の生と死にかかわる真摯な信仰・俗信を反映した、多種多様な図像を発掘し、その意味を解読・分析してきた。3人の研究者が、それぞれの分野の資料を集めたうえで、同時代の宗教的なテキストや民衆文学などを用いながら、図像の起源や来歴や社会的な役割などを分析した。そして、そうした研究内容を研究者だけでなく、広く一般社会に向けて発信するため、三年目に、明治大学博物館において、企画展「民衆の図像展」を開催し、貴重な実物資料を展示・解説し、多くの観覧者を動員した。また、これ以外にも、多くの一般向け講座での講演、国際図像解読研究会、国際熊野学会他の学術会議、『国文学 解釈と観賞』における数回の特集の他の出版物などによる社会還元を果たした。

研究成果の概要（英文）：

Our research project team treated the analysis of popular pictures based on the text of literature in the same age. We approached this problem from three steps, the first collecting research picture-materials (e.g. religious paintings for people, popular prints, handwriting clothes from Middle Ages to modern era of Japan, East Asia, and Europe) in each researchers, the second analyzing each collections on the source, the history, and the social role based on religious texts and folk literatures in the same age, the third opening a series of results to the public.

In these steps we organized one exhibition open to the public and open lectures in Meiji University, several research meetings, and several field works, and made many open lectures for the general public presentations in the several academic meetings and publications.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学

キーワード： 近世文学・中世文学・東アジア・ヨーロッパ

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請時における背景

① 図像解読研究というジャンルの先駆的母体として、既に 1980 年創設の「絵解き研究会」（林雅彦会長）が存在しており、大きな成果を上げていた。但し、この「絵解き研究会」が取り扱う研究対象は、主に布教を目的とした宗教者による「絵解き」と称する芸術的活動に用いられた図像であり、この点、いわば限定的ともいえる。

② これまでの「絵解き研究会」の優れた研究実績を十分尊重しつつも、より研究の枠を広げるため、申請の前々年度中（2007 年度末）に、「絵解き研究会」で活動してきた林・腮尾・西岡の三名が中心となり、新たに「国際図像解読研究会」（林雅彦会長）を立ち上げた。この「国際図像解読研究会」では、「絵解き」用に用いられていない図像も含め、大衆の信仰・俗信を反映するさまざまな図像を幅広く取り上げて研究することにし、更に科研費の助成により、活動規模を拡大したいと考えた。

(2) 申請時における動機

① 図像を研究するために必要となる資金

本研究は、文献の文字にあたるだけでなく、図像を取り扱う研究であるため、図像を大きく映写する機材を購入する資金や、図像の実物資料を展示するための資金が必要であり、科研費の助成を受けたいと考えた。

② 機材の資金

学会・研究会で研究発表する際に現場に持って行くことのできる、ポータブル型の書画カメラ・スクリーンを購入したいと考えた。図像解読研究の場合、発表レジュメを配布しただけでは、発表者が「図像のこの部分」を言っただけでは、図像の細部を指摘した時に、聞き手側がすぐにその位置を認識できないことがある。書画カメラがあれば、発表者が指す部分を、スクリーンで、聞き手側が瞬時に確認できて便利である。

③ 本研究の成果を社会還元するため、博物館で図像の実物資料展示を行いたいと考えた。そのためには、展示物監視員の人件費・解説パネル制作費・運送費用など、まとまった資金が必要であった。

2. 研究の目的

大衆の信仰・俗信を反映した図像の遺品として、絵画・工芸品・衣服文様などが存在するが、その多くは、使用素材が質素であったり、制作技術が稚拙であったりして、必ずしも美

的価値のある名品とはいえない。そのため、大衆的図像の遺品は従来、文化史料として尊重されない傾向があった。幸いにして現在まで保存されていたとしても、保存状態が悪く破損していたり、未整理のままであったりする場合が多い。

本研究では、従来そのように粗雑な扱いを受けてきた大衆的図像の遺品に関して、その歴史的背景や意味を解読することによって、美術品的な価値とは別個の新たな価値を見いだすことを目指す。そして、そうした大衆的図像の存在の重要性が社会的に広く認められ、将来に向けて適切な保存対策がとられるように、研究者に対してだけでなく、一般社会人の方々に対しても働きかけたい。

3. 研究の方法

(1) 基本的な研究方法

研究代表者以下、研究チーム三名が、それぞれ異なる各自の専門分野にてらして、日本・東洋・西洋の多種多様な大衆的図像を着実に発掘し、それらの図像の基盤となっている宗教や俗信、図像の流布の実態などについて分析する。

(2) 研究発表の方法

研究チーム三名が個々に調査研究した内容は、ある程度まとまった時点で、積極的に学会・研究会で発表する。発表の際は、科研費で購入したポータブル書画カメラ・スクリーンを活用して、図像をできるだけ数多く映写して紹介する。こうした発表活動により、研究チーム三名が互いに情報を共有するだけでなく、チーム外の研究者からも情報や示唆をいただき、より一層研究内容を深化させる。

(3) 情報収集の方法

研究チーム三名が中心となって運営する「国際図像解読研究会」において、三名とは異なる領域の図像研究者を招待し、最新の研究内容を発表していただいたり、または、学術講演の形で自身の今までの研究内容全体のガイダンスをしていただいたりする。このように、他領域の研究者からも情報提供を受け、学術的刺激を受けることにより、視野を広げることができる。

(4) 総合的な研究発表の方法

研究チーム三名それぞれ異なる研究内容の総合的な発表方法として、博物館で企画展示（研究資料展示）を行う。博物館の展示室は、展示実施の一年前に確実に予約しておく必要があるため、展示の趣旨・内容は早めに確定する。学会・研究会発表だけでなく、企画展示を行うことにより、図像の写真だけでな

く、実物そのものを示すことができる。また、研究者だけでなく、広く一般の方々にも向け、わかりやすく研究内容をアピールすることができる。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

①最大の成果

研究の基調として、研究チーム三名は、個々の専攻分野にてらして、それぞれ大衆的図像を発掘し、精力的に分析・解読することができた。三年間の研究活動全体を通して最大といふべき成果は、研究チーム三名のそれぞれの研究内容を総合し、明治大学博物館にて、2011年8月21日～28日の期間、企画展示「民衆の図像展」（「国際図像解読研究会」主催）を実施したことであった。

②企画展示の具体的内容

「民衆の図像展」の展示内容は、二部門からなり、「第1部 江戸・明治・大正期の結婚・育児にかかわる図像」を腮尾が担当、「第2部 東アジアとヨーロッパの生と死をめぐる図像」を林・西岡が担当した。また、展示品を列挙・解説した小冊子（非売品）を作成し、観覧者に配布した。観覧者数は、8日間で、子供（小学生）から大人まで、のべ1200人以上を動員し、大盛況であった。

③企画展示の関連催事

この企画展の出品資料について、より詳しく解説するために、10月に、明治大学のエクステンション講座（リバティアカデミー講座）を開催した。第1回を林、第2回を腮尾、第3回を西岡が担当し、社会人が受講した。熱心な受講者により、活発な質疑応答が展開された。

(2) 得られた結果の研究會における位置づけとインパクト

①得られた結果

「民衆の図像展」を行った結果、多数の観覧者との直接対話（ギャラリートーク・ワークショップなど）やアンケートを通して、大衆的図像の解読研究の意義の大きさを、改めて自覚するに至った。我々研究チーム三名の目標通り、観覧者の間から「貴族など上流階級の文化だけが重要なわけではないと気づいた」「こうした資料を大事に保存して次代に伝えたいと思う」といった声が多く上がったのは、大収穫だった。

②結果の研究會における位置づけ

申請当初も現在も、一般的に、文学系の研究界では、研究者の研究内容の発信方法と言え、学会発表や学術雑誌論文執筆が主流であり、その受け手はほぼ同業者（研究者）に限

定されるという状況が続いている。このような風潮の中、博物館という場を借りての資料展示という方法で、研究者のみならず、小学生を含む子供たちをも含めた一般の人々に向けて、専門的研究内容をわかりやすく工夫してアピールしたことは、非常に斬新な活動であったといえる。今後、研究界全体に、研究内容を社会還元するための資料展示活動がもっと普及すればよいと思う。

③結果の研究界におけるインパクト

本研究チームの研究姿勢の大きな特色として、長年にわたり、自ら古画など実物資料を私費収集し、自ら工夫して管理・保存してきた、という点が挙げられる。自分自身の手で、日常的に実物資料に触れているからこそ、実物資料の持つ力を体感することができ、それを展示しようという発想が生まれるのである。近年、特別書庫などに所蔵されてきた貴重資料が撮影・データ化されて、インターネットで手軽に閲覧できるようになった。研究調査が能率化された点はよいが、その反面、自らの手で実物資料を取り扱うノウハウを持たない研究者が今後増えていくことが予想される。そうした潮流の中で、自らの手で実物資料を取り扱い、展示することができる研究者の存在価値は、ますます大きくなると考えられる。

(3) 今後の展望

これまでの三年間の研究内容に、さらに資料を補足して、学術論文・学術図書の原稿執筆に力を入れたい。当面、予定しているのは、西岡亜紀・林雅彦『人生の図像を読み解く——生と死の東西比較——』（方丈堂出版、2012年内予定）の刊行である。また今後は、研究内容をより広汎に社会に還元するため、資料展示を首都圏で開催するだけでなく、地方（例えば熊野や広島県内など）でも開催したい。ただし、地方は都会と違い、在住人数の規模が小さいので、資料展示に観覧者を集めるのが難しく、広報を強化しなければならないであろう。そのため、地方の博物館や文化紹介活動に関心のある団体（NPOなど）と連携を進める必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

①林雅彦、絵解き一紙芝居の源流と展開、国文学 解釈と鑑賞、査読有、74巻5号、2009、128-141

②腮尾尚子、「画題」というもの—絵画と文学を協働させてきたもの—、同上、2009、6-13

- ③腮尾尚子、仏教的教訓語の絵画化——「意馬心猿」の例一、同上、48-59
- ④西岡亜紀、大衆メディアの未来と絵解き——人間のなるものの再考一、『構想』(日本構想学会誌・web配信)、査読無、8巻、2009、1-2
- ⑤林雅彦、絵解き(絵語り)と私——付・絵解き台本「熊野観心十界曼荼羅」——、いすみあ』(明治大学大学院教養デザイン研究科紀要)、査読無、2号、2010、21-36
- ⑥林雅彦、善光寺信仰と文学、『地域総合研究』(松本大学・松本大学地域総合研究センター)、査読有、11号、2010、379-391
- ⑦林雅彦、熊野詣で——熊野の神・仏と祈りの世界、現代宗教評論、査読無、4号、42-57
- ⑧林雅彦、熊野比丘尼が絵解きした「熊野観心十界曼荼羅」、長野、査読無、274号、2010、2-9
- ⑨腮尾尚子、鈴木重三氏校注『修紫田舎源氏』を読んで、日本文学、査読無、59巻、2010、92-96
- ⑩林雅彦、座談会 検証・大正文化としての紙芝居——紙芝居に魅せられて——、国文学解釈と観賞、査読有、76巻10号、2011、6-23
- ⑪林雅彦、熊野古道・紀伊長島の仏教説話画、おくまの、査読無、2号、2011、57-63
- ⑫西岡亜紀、「街頭紙芝居」の戦後——『黄金バット』の復活と再ブームを中心に、国文学解釈と観賞、査読有、76巻10号、2011、135-143
- ⑬腮尾尚子、布物資料の保存・展示方法について、ミュージアム・アイズ、査読無、2012、6-7

[学会発表] (計 39 件)

- ①林雅彦、語りの熊野詣 ——語り物・絵解き・話芸一、世界遺産登録5周年記念事業「語りの熊野詣口演サミット」、2009年7月1日、新宮地域職業訓練センター
- ②西岡亜紀、「人生の階段図」解説、国際図像解読研究会、2009年8月22日、明治大学
- ③西岡亜紀、死生観と基層文化を考える ——紀伊熊野からの発信、Jssi fresh seminar (日本構想学会セミナー第1回)、2009年9月12日、お茶の水女子大学
- ④西岡亜紀、大衆メディアの未来と絵解き——人間のなるものの再考一、日本構想学会第9回大会、2009年12月5日、東京国際フォーラム
- ⑤林雅彦、「涅槃図」の流伝——熊野市・最明寺蔵「釈迦涅槃図」への架橋——、明成会総会講演会、2010年4月24日、成田市加良部公民館
- ⑥林雅彦、説教節と太宰春台、天眼寺仏教講

- 座第1回、2010年4月25日、天眼寺会館
- ⑦腮尾尚子、和紙の文化・様々な料紙装飾①——和紙の原材料と製法・特殊な再生紙——、広島修道大学生涯学習講座、2010年7月24日、広島修道大学ライブラリーホール
- ⑧腮尾尚子、和紙の文化・様々な料紙装飾②——染め紙・漉き染め紙——、同上
- ⑨腮尾尚子、和紙の文化・様々な料紙装飾③——装飾紙・唐紙——、同上、2010年7月31日、同上
- ⑩腮尾尚子、和紙の文化・様々な料紙装飾④——立体的な加工をした料紙——、同上
- ⑪林雅彦、熊野比丘尼の絵解き、成田市生涯学習講演会(成田市教育委員会・明成会)、2010年9月11日、成田市中央公民館
- ⑫林雅彦、江戸の町——民衆芸能と大衆芸能——、明治大学・ウィーン大学第9回シンポジウム「都市空間と娯楽——東京・ウィーン比較都市学」、2010年9月18日、明治大学駿河台校舎(東京都)
- ⑬腮尾尚子、江戸時代の絵暦「大小暦」①——「旧暦」の特色と「大小暦」——、広島修道大学生涯学習講座、2010年10月1日、広島修道大学ライブラリーホール
- ⑭林雅彦、「熊野古道」——信仰と参詣をめぐって——、明治大学交友会千葉県東部支部講演会、2010年10月2日、京葉銀行文化プラザ
- ⑮腮尾尚子、江戸時代の絵暦「大小暦」②——色々な図柄の「大小暦」——、広島修道大学生涯学習講座、2010年10月8日、広島修道大学ライブラリーホール
- ⑯腮尾尚子、江戸時代の絵暦「大小暦」③——「大小暦」と文字絵——、同上、2010年10月15日、同上
- ⑰林雅彦、絵解きの世界、専修大学日本語日本文学文化学会講演会、2010年11月19日、専修大学生田校舎
- ⑱腮尾尚子、江戸の流行色——四十八茶百鼠——、ひろしまNPOセンター教養講座、2010年11月26日、ひろしまNPOセンター講義室
- ⑲林雅彦、熊野円座「熊野はどいらいげえ」、第4回熊野学フォーラム、2010年1月22日、明治大学アカデミーホール
- ⑳林雅彦、熊野古道伊勢路の文献初出と展開——「近世文人と八鬼山越え」一見——、明治大学リバティアカデミー・東紀州まちづくり公社連携講座、2011年1月27日、同上
- ㉑腮尾尚子、筒描き布に見られる出産・育児に係わる伝統的吉祥文様——「寶水堂コレクション」を中心に——、国際図像解読研究会例会、2011年2月21日、お茶の水女子大学同窓会館桜蔭会館会議室

22 梶尾尚子、育児に関する信仰と玩具——天神人形・たのも船などについて——、国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館公開講座、2011年2月26日、国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館ホール

23 林雅彦、熊野文化は一億人の心の宝、熊野ルネサンスフォーラム～文化コンプレックスがもたらすもの～、2011年5月14日、新宮地域職業訓練センター

24 林雅彦、江戸市中の祭り、明成会総会（成田市・生涯学習の会）、2011年5月28日、成田中央公民館

25 林雅彦、法話・地獄絵の絵解き、天眼寺「お施餓鬼会」、2011年7月2日、天眼寺

26 林雅彦、落語にもなった「大山まいり」——関八州・雨乞いの霊場——、戸隠遊行塾、2011年6月18日、本坊久山館

27 林雅彦、道成寺縁起説話の展開、成田市生涯学習講演会、2011年9月10日、成田市役所大会議室

28 梶尾尚子、「円頓観心十法界図」と日蓮宗——「熊野観心十界図」の展開——、国際熊野学会、2011年5月22日、南山大学

29 西岡亜紀、ド・ロ神父の宣教活動——民衆版画・絵解き——、国際図像解読研究会第10回研究発表会、2011年7月28日、

30 梶尾尚子、育児に関する俗信——「人形硯」と「背守り」——、国際図像解読研究会、2011年8月6日、明治大学博物館

31 林雅彦、東アジアの生と死をめぐる図像、明治大学リバティアカデミー講座「民衆の図像—生と死をめぐる真摯な祈り」、2011年10月8日、明治大学駿河台校舎

32 梶尾尚子、育児に関わる祈りの図像——背守り・人形硯を中心に——、同上、2011年10月15日、同上

33 西岡亜紀、民衆図像の洋の東西——ヨーロッパから東アジアへ、同上、2011年10月22日、同上

34 林雅彦、熊野古道伊勢路の絵解き、NPO法人熊野生流倶楽部・東紀州観光まちづくり公社連携講座、2011年11月18日、大阪ドームセンター

35 西岡亜紀、1930～40年代日本の文化メディア検閲——紙芝居を事例に——、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センタープロジェクト「近現代日本におけるフランス文化の影響——文学、思想、芸術の領域において——」、2011年11月24日、お茶の水女子大学

36 林雅彦、パネルディスカッション「今『那

智滝図』が語りかけるもの」、第5回熊野学フォーラム「国宝『那智滝図』の聖性！！」、2012年1月21日、明治大学駿河台校舎

37 林雅彦、文学・絵画に見る熊野、明治大学・東紀州観光まちづくり公社連携講座「五感で感じる熊野」、2012年2月2日、同上

38 西岡亜紀、近代文芸のなかの「道成寺」——古典とモダニズムの融合——、国際熊野学会2011年度熊野例会、2012年3月10日、和歌山県太地町公民館

39 梶尾尚子、広島県の伝統織物「備後緋」の美、中国新聞文化センター特別講座、2012年3月18日

〔図書〕（計3件）

① 林雅彦、信濃地の絵解き——日本の絵解きの現状を視野に入れつつ——、「釈迦涅槃図」絵解き台本（光童堂）、2010、20-24

② 林雅彦、熊野比丘尼と絵解き、谷川健一・三石学『海の熊野』（森話社）、131-160

③ 林雅彦、立体化した「絵解き」の世界、若林純『寺社の装飾彫刻 宮彫り——壮麗なる超絶技巧を訪ねて』（日賀出版社）、2011、165-167

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 雅彦 (HAYASHI MASAHIKO)

明治大学・法学部・教授

研究者番号：30139448

(2) 研究分担者

腮尾 尚子 (AGIO NAOKO)
広島修道大学・人文学部・教授
研究者番号：20341183

西岡 亜紀 (NISHIOKA AKI)
御茶の水女子大学・比較日本学教育研究
センター・研究員
研究者番号：70456276

(3) 連携研究者

なし